

## e QSO

JJ1SXA 池

2月末に、240の掲示板に書き込まれた、**JQ1SYQ** 西野OMの「e QSO」の記事を読み、早速挑戦してみました。

早速インターネットで、「e QSO」を検索して、概略を把握、フリーウェアのソフトをダウンロードし、ありあわせのマイクをPCにセット、ソフトを立ち上げて、「**Callsign/Coment**」欄に自分のコールサインを入力。

「**See Who's on the system**」ボタンをクリックすると、世界各地に設けられているサーバーとその下にあるルーム、そしてそこに接続しているユーザの一覧が、ツリー形式で表示されました。

見て行くと、ありました、「**Taipei-JPN**」「**BW2/JQ1SYQ**」のルームです、ルームにコネクトすると直ぐ、西野OMから「池さんですかと？」と呼び出しがあり、ファーストe QSOとなったのでした。

無線のゲートウエー無しでは、単なるIP電話、音声チャットですが、半二重の片通話、画面のPTTスイッチを押しながら話すのは、無線の感覚です。

勿論、PTTスイッチの代わりにスペースキーを押しながらでも良いし、また、別のソフトを使用すれば、VOX運用もできます。

最近では、インターネットを中継に使う手法が盛んで、他にもエコーリンクやワイヤーズII等もあり、従来のリピーターとは大いに違い、全世界が簡単に結ばれるようで、RFゲートウエー局を介すれば、日本からハンディー機片手に、Wのモバイル中のハンディー機局とQSO、何か一寸違う気もしますが、お互い無線機での話ですから、やはり立派な無線なのでしょう。

あまり、堅苦しく考えず、便利さのみを考えて運用すれば、これほど楽に、DXの局とのQSOができるのですから、利用しない手は無いですね。

時間のある時は、出来るだけ、ルーム（サーバー=**Server.eQSO.net**に、ルーム=**TWO-FORTY**、コール=**JJ1SXA**）を立ち上げています。

現在は、毎週月曜日のロールコールを中継していますが、単純に、TXのスピーカーからの音声をPCのマイクに入力、出力は、PCのスピーカーからの音声をTXのマイクに乗せるといふ、いとも原始的な方法でやっています。

ロールコール中は、殆んど送信状態ですが、ブレイクは、コメント欄でできます（このソフトの良い所は、日本語がそのまま通ると、送信状態でもコメントの送受が別に出来る事です）、インターネット環境をお持ちの局は、何時でも「e QSO」ができるようにしておいたら如何でしょう。

(Apr,2003)

## eQSO-2

eQSO については、丁寧な説明をしているホームページが多数ありますが、実際に始める為の簡単な説明をします。

まず最初は、ソフトウェアのダウンロードです(フリーウェアです)。

eQSO のホームページ <http://www.eqso.net> にアクセスして、**PC user instllation eqso.exe** または、**RF gateway zip eqso rf.zip** からダウンロードします、**eqso.exe** は、通常版で、**eqso rf zip** は、RF ゲートウエー版です。

通常版の場合は、ダウンロードしたファイル **eqso.exe** をダブルクリックするとインストール開始です。

説明は英語ですが、基本的に Next Yes Install Finish のボタンをクリックしていけば、インストール完了。

RFゲートウエー版も基本的には同じです、最初からこちらの方をダウンロード、インストールする事をお勧めします。

2 番目は、ソフトウェアの起動です、通常版の場合、スタートボタンをクリックし、メニュー・フォルダーから「**eQSO by M0ZPD**」を選択し、その中の「**eQSO**」をクリックすると、ソフトウェアが起動し画面が表示されます。

RF 版の場合は、解凍後の **Client\_M0ZPD.exe**(私は、**C:¥Program Files** に置いている)をダブルクリックするとソフトウェアが起動し画面が表示されます。

画面が表示されたら、いよいよサーバー・ルームへの接続です、自分のコールサイン、コメント欄に **QTH** などの情報を入力(何も入力しなくても良い)して、**See Who's on the system** ボタンをクリックすると、世界各地に設けられているサーバーとその下にあるルーム、そしてそこに接続しているユーザーの一覧がツリー形式で表示されますので、入りたいルームの部分をクリック、ルーム名をブルーに反転させて左上の **Connect to Selected Room** ボタンをクリックすれば、ルームに入れます。

ルーム名 **TWO-FORTY** が見えたら(立ち上がっていたら)、ここへ行って下さい。送信は、通常版の場合は、**PTT** を左クリックしたまま、又は、スペースキーを押し続けて送話します、クライアント版の場合は、**VOX** 運用でやってみて下さい。(どちらも、他の人が話している時→コールサイン欄がブルーに反転の時は送信できません)

後は、マイクゲインの設定等ですが、コントロールパネルのサウンドとオーディオデバイスの設定で、ボリュームコントロールの「音声の再生」のマイクは「ミュート」、プロパティで「録音」を選択、録音の「マイクゲイン」を調整して下さい。

本当にマイク、スピーカーが動作しているかを調べるのはサウンドレコーダーで、録音ボタンを押してしゃべり、波形が動くのを確認、停止ボタンを押し、再生して、聴いてみる。(サウンドレコーダーは、スタート→プログラム→アクセサリ→エンターテ

イメント→サウンドレコーダーです)

**VOX**のゲインは、スライドバーを下げると上がります、また、**Silence Level**ですが、これは、無線機をつないだ時、無線機のスケルチが閉じていても**PC**が送信状態になる時は、サイレンスレベルのスライダーを右の方へ調整すると**PC**は受信(待機)になる筈ですが、**SSB**の運用では、余り関係ないような感じです。

無線のゲートウエーですが、無線機と**PC**をインターフェースで接続、無線機が信号を受信した時は、その信号を自動でインターネットに流す、外部の**PC**から信号が入った時は、**PTT**を制御して自動で無線で送信するようにするのが本来です。

私の場合、通常使用するメインの無線機を自動でゲートウエー機としても共用できるようにしたいので、インターフェースは、**PC**とリグのマイクの自動切換えが簡単にでき、**RS232C**(**COM**端子)の**RTS/DTR**信号で**PTT**制御に対応できるものです。

無線機の**AF**出力は、無線機のexSP端子から**PC**の**MIC**端子に直接入力、抵抗入りケーブルを使用していますが、**ATT**は無くても**VOL**調整で大丈夫そうです。

無線機のマイク端子とインターフェースを接続、インターフェースのもう1方の端子に無線機のマイクをつなぎます、インターフェースと**PC**の接続はシリアル**RS232C**コネクターストレートケーブルで接続し、**RTS/DTR**信号でリグの**PTT**を制御です。

**PC**のサウンド出力は**PC**の**SP**端子から両端ミニプラグのステレオケーブルでインターフェースに入れますが、ノートパソコンの**SP**端子からのサウンド出力が小さいので、**PC**とインターフェースのラインの間にアンプが必要でした。

これで、通常使用とゲートウエー運用を共用で使用できるシステム完成ですが、自分の信号を無線とインターネットに同時に乗せるには、ルームにつながれている別の**PC**か別の無線機から発信すれば良いのですが、タイムラグがあり、メインリグと**PC**双方の**MIC**を同時使用する場合は、**PC**の**MIC**端子からインターフェースに繋いだケーブルをはずして、**PC**用のマイクに繋ぎ変え無ければならず、一寸手数です。

50MHzの電波が届かない地方や、オーバーシーへ出かけた時に、インターネットが使えれば、240の電波を聞くことができるのは**FB**と思いますが、いかがでしょう。

移動中でも、携帯電話や**PHS**でダイヤルアップでの運用も可です、この場合は、**RF**版で、**RF Gateway settings**の所で、**Daial-up to Internet on Connect**にチェックしておけば、ルームを選んで**connect**のボタンをクリックすると、ダイヤルアップで、インターネットに接続されます、また電波が弱い所で接続が切れる場合、**Auto-Reconnect**にチェックを入れておくと、再度自動的にコネクされるようで、こうなると、携帯電話等(**Air-H**が**FB**)をつないだノート**PC**は、アンテナ無しで立派なモバイル機ですね。

**eQSO**のソフトには、**CW**で**ID**が出せたり、その他にも色々な機能が付いていますが、ヘルプを見ても良くわかりません、なにしろ英文です(笑)、もう少し勉強しなければいけませんね。

(Jun,2003)